

学習塾

株式会社 鹿明館



代表取締役 小林 憂貴氏



岡山県北エリアに4校を展開する学習塾。
／鹿明館 道真塾（写真：美作校）

上／美作校外観 下／授業風景

学習塾でありながら堅苦しくなく、生徒からは「落ち着く」「家のような感覚」という声もある。温もりのある空間でのびのびとつつ、生徒自身がやる気を持って学ぶことができるのが特色。



株式会社鹿明館（美作市明見）は、2011年に創業。同社が運営する学習塾「鹿明館道真塾」は現在、美作校、作東校、勝田校、奈義校の4校がある。

同塾の対象学年は小学生から高校生まで。集団授業が中心であるが、授業では必ず個別指導の時間を設け、生徒の理解度に応じた教材、テーマで指導する。様々なレベルの生徒に対応できる体制を

整えているため、途中から入塾した生徒も置いていかれる心配はない。

鹿明館という名称は、明治時代の日本において外国との社交の場であった「鹿鳴館」に由来している。学習塾は敷居が高く思われがちであるが、鹿明館のようにどんな人も受け入れる開かれた場でありたいという想いと、明るい場にしたいという想いを込めて「鳴」を「明」とし

「鹿明館」と名付けた。

代表を務める小林氏は、自身も英語と社会の講師として教鞭をとっている。小林氏は幼少期から英語話者に囲まれて生活しており、大学卒業後にはアメリカの大学へ編入し語学を学んだ経歴を持つ。同氏の英語の授業は特に評判が高く、生徒から高い人気を集めている。

これからも、地域の学生たちに明るく開かれた学びの場を提供し、教育を通して地域の未来を支えていく。

株式会社鹿明館／鹿明館 道真塾
美作校（本校）：美作市明見8-1 Mビル2階
TEL：0868-72-3318

作東校：美作市川北89-1
勝田校：美作市真加部38-3
奈義校：奈義町豊沢600

定休日：土・日曜日
営業時間：14:30～21:30

サンドイッチ専門店

nid sand



フルーツやお菓子、ホイップなどを挟んだ「スイーツサンド」をメインに取り扱うサンドイッチ専門店。/nid sand(真庭市中)



▲移転前はスイーツサンド専門であったが、移転後からはカツサンドなどの惣菜系サンドも常時販売している。



▲鮮やかな青色が目を引く店舗。店内にはイートインスペースがあり、購入したサンドをその場で食べることができる。

nid sand(ニ・サンド、真庭市中)は、2016年創業のサンドイッチ専門店。スイーツサンドを中心に様々なサンドイッチを販売しており、2024年4月に岡山市から真庭市に移転オープンした。

同店が提供するサンドの種類は、シャインマスカット、白桃などのフルーツやホイップを挟んだスイーツサンドから、たまごサンドやカツサンドなどの惣菜系サンドまで様々。

代表の宮脇氏は『断面命』が信条であり、この言葉は看板として店内にも掲げられている。宮脇氏が作るサンドは、どれも具材を美しく見せるための細かな工夫が凝らされており、味だけでなく見

た目でも顧客を楽しませたいというこだわりが詰まっている。

店名は、フランス語で「鳥の巣」を意味する「nid」とサンドイッチの「sand」を合わせた造語で、日本語の「二度、三度」来てほしいという想いをかけて名づけられた。店名の通りリピーターも多く、6月にイベントを開催した際には県南から訪れた移転前からのファンを含む多くの来店者で賑わった。

地域の飲食店と協力し、マルシェ等のイベントを積極的に開催しており、今後も定期的に開催する予定であるとのこと。

これからもこだわりのサンドイッチを通して顧客に笑顔をお届けしていく。

nid sand (ニ・サンド)
住所：岡山県真庭市中 389
定休日：水曜日 + 臨時休業あり

営業時間：10:30 ~ 売り切れ次第
駐車場、イートインスペースあり
お支払いは現金のみ

Instagram
はこちら



津山市社会福祉協議会に

災害備蓄食品を

寄贈しました

6月12日(水)、災害備蓄食品の更改に伴い、既存の備蓄食品を津山市社会福祉協議会に寄贈しました。

寄贈したのは、災害に備え中国地区信用金庫協会が購入し、県内の各信用金庫で保管していた缶入りパン336食とフリーズドライのご飯252食です。

信用金庫はこれからも、フードロスの削減、生活にお困りの方の支援に取り組んで参ります。



▲災害備蓄食品寄贈式の様子



▲「津山生姜エール」仕込み式の様子

「津山生姜エール」仕込み式を 開催しました

7月9日(火)に、よい仕事おこしプラザ(東京都大田区羽田空港、羽田イノベーションセンター)にて「津山生姜エール」仕込み式を開催しました。

「津山生姜エール」は、全国の信用金庫が連携し、地域の枠を越えて様々な課題を解決している「よい仕事おこしネットワーク※」と「津山市」の連携第1弾として企画された、津山市の特産品である「生姜」を使ったクラフトビールです。株式会社大鵬(東京都)で醸造し、仕込み式を行いました。



▲左から株式会社大鵬 代表取締役・大屋氏/株式会社曲辰 代表取締役・芦田氏/津山市長・谷口氏/津山信用金庫 専務理事・寺尾/城南信用金庫 副理事長・長谷部氏/城南信用金庫 相談役・川本氏

8月27日(火)・28日(水)には、アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」(東京都港区新橋)にて、津山地域の産品と共に津山生姜エールを販売する「津山生姜エール&作州地域うまいものフェア」の開催も予定しております。

※城南信用金庫が事務局を務める「よい仕事おこしネットワーク」では、地域活性化のため全国各地の名産品がコラボした新商品を開発するとともに、連携する地域をPRする地域連携プロジェクトを展開しています。

「津山商業高校の

校内企業説明会」に

参加しました

当金庫は、7月10日(水)に、進路決定を控えた津山商業高校3年生向けの校内企業説明会に参加しました。当金庫の三宅職員(東支店)から当金庫の概要や地域支援活動、営業店の仕事についてお話をさせていただきました。説明会では、同校で学ぶ簿記・経済の仕組み・ビジネスマナーなどが社会に出てからどのように役立つかや、同校の校訓である「自彊(じきょう)」「自ら勉め励むこと」が当金庫の求める人材とマッチしているという内容も盛り込んで、お話しさせていただきました。



▲説明会の様子

第10回 つしん /

こども マネー スクール

2024
8/19(月)
8/20(火)
9:00-12:00

対象

小学校5年生・6年生
各日とも定員12名

※上記以外の学年でご希望の
場合は当金庫にお問い合わせ
ください。

参加費

無料

会場

津山信用金庫
本店

お申し込みは、最寄りの営業店、渉外担当者、もしくは下記ご連絡先まで。

担当:津山信用金庫 個人応援部

〒708-0022 津山市山下30-15 TEL:0868-22-4150

お申し込み期限:2024年8月2日(金)

美作の国 雑感

～STEAM人材とは?～

理事長 松岡 裕司



一人当たりGDPはOECD諸国の中で31番目。内閣府調査では7.7%しか将来暮らしが良くなると思っていない。現状維持が精々と大部分の人は思っている。少子高齢化や人口減少時代に突入したこともそのような空気感を助長している。企業経営者の方とお話すると、ここでは人が来ない、どうしたら良いか分からない、と嘆き節が聞かれる。確かに都会には若者が溢れ作州地域には人の流動化さえ起こっていない。

付加価値×労働分配率=賃金。ここ2年半ユニクロショックから皆で渡れば怖くないと「賃金引き上げ」が数十年振りに起きている。でも世間がそうだからと防衛的にベースアップしている地元企業は多いのではない。決して付加価値(利益)が増えたからではない。

これで良いのか?今、我々日本人が考えるべきは、この付加価値額を増やすこと。人が減っても一人当たり付加価値額を増やせばカバーできると前向きに考えること。賃上げを防衛的ではなく、従業員一人ひとりへの「投資」と考え、付加価値を上げることに全員が目覚めること。この発想の大転換が必要である。それには一人ひとりが輝かないと価値増殖は生まれにくいことに気づかねばならない。学びを忘れると人は成長しない。輝くと言うキーワードは教養ではないのかと思う。さて教養とは何か?人さまへの思いやりと言った人がいる。

AI時代には芸術、デザイン、文学、哲学、歴史などのリベラルアーツと言う教養が重要となる。何故なら商品もサービスも使うのは人間である。いくら世の中が変化しようとも人間が主役である。日本人には人の為にお役に立ちたいという文化が根づいている。協同組織金融機関である信用金庫は、「至誠・勤労・分度・推譲」と言う世のため人のためになる仕事をする理念に突き動かされている。いくら技術が進歩しようともそれを動かすのはA(アーツ)、熱い心である。やっと文科省も気づいたSTEAM人材教育に関心を持って欲しい。これこそが我が国が失われた30年、大きな後れを取った情報産業の付加価値を上げうる長期的な戦略なのではないかと思う。

公式 Instagram

つやつや
＜津山信用金庫＞

フォロー&いいね
お待ちしております!

Instagram



LINE



LINEの
お友達登録も
お願いします!



※つしん日和に関するご意見・お問い合わせは当金庫HP「お客さまの声」からお願いたします。

編集発行:事業所応援部

TEL:0868(22)4136

FAX:0868(22)8637

MAIL:s1735017@facetoface.ne.jp

(つしん日和第98号:2024年7月25日発行)